JLシリーズ タカギ 混合栓施工説明書

takagi

蛇口一体型浄水器 みず工房 エコ分岐水栓

■施工前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく施工してください。
■ここに示した「安全上のご注意」は状況によって重大な結果（傷害・物損）に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
■施工完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れのしかたを説明してください。また、取扱説明書はお客様で保管いただくように依頼してください。
■給排水管工事は専門業者でお願い致します。

安全上のご注意

本品を安全に正しくお使いいただく前に

取り付け前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく設置してください。

絵表示について 製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告 この表示を守らずに誤った取り扱いをすると、人が死亡、または重傷を負う可能性が想定されている内容を示しています。

⚠注意 この表示を守らずに誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定されている内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

⃠記号は、禁止行為であることをお知らせするものです。図の中や近くに具体的な「禁止」内容を示しています。

⃠記号は、触れると危ないことをお知らせするものです。図の中や近くに具体的な「禁止」内容を示しています。

❗記号は、必ず実行していただくものです。図の中や近くに具体的な「強制」内容を示しています。

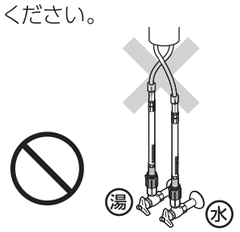
⚠警告

- 設置の前に施工説明書をよく読み、その手順に従って設置してください。
- 必ず製品に付属の部品を使用して施工してください。
- 故障や水漏れの原因になります。修理技術者以外の人は水栓本体内部を分解しないでください。

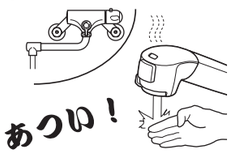
⚠注意

やけどをするおそれがあります

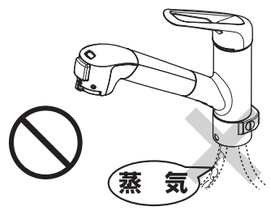
●湯水を逆に配管しないでください。



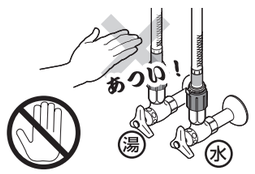
●他所の水栓の使用などにより水圧変動が起こり、湯温が使用中に急上昇する事があります。



●給湯に蒸気を使用しないでください。



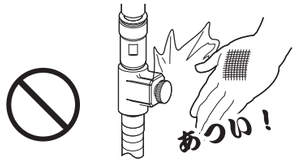
●湯側の配管には手を触れないでください。



●60℃を超える高温でご使用になると器具が破損し、浄水器としての性能を維持できなくなる場合があります。また、誤操作によるやけど防止のため、給湯温度は60℃以下でご使用ください。

湯・水が噴き出てやけどや家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります

●水抜き継手をいきなり開けると高温の湯が出てやけどをしたり、家財などを濡らすおそれがあります。水抜き以外の目的で開けないでください。（寒冷地仕様のみ）

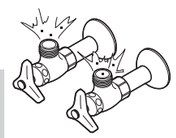


⚠注意

漏水により、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります

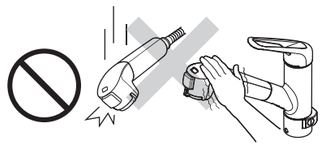
●水栓本体を取り付ける前（新設）に給水管内のゴミなどを完全に洗い流してください。

水量調整及び器具の点検を容易にするために、別途止水栓を必ずご用意ください。



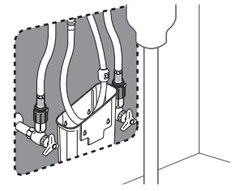
●高水圧地区（設置条件参照）では減圧弁を設置してください。

●製品を落としたり、強い力や衝撃を与えたりしないでください。

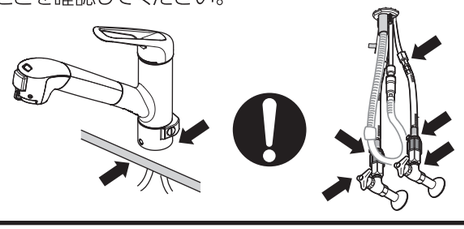


●水栓本体及び各接続部は浮きや緩みがないように、しっかり固定してください。各接続部が確実に固定されていないと水栓本体が傾いたり、水漏れが発生する可能性があります。

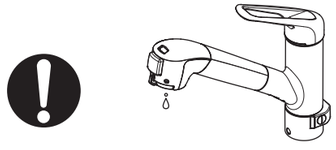
●定期的に止水栓取り付け箇所や給水管、給湯管との接続箇所の点検がされていないと、万一の漏水発生時に発見が遅れ、家財などを濡らすおそれがあります。各接続箇所の確認が行なえない場合は、確認しやすい位置に点検ができる窓（点検口）の設置をおすすめします。



●施工完了後は、水栓本体及び各接続部から水漏れのないことを確認してください。

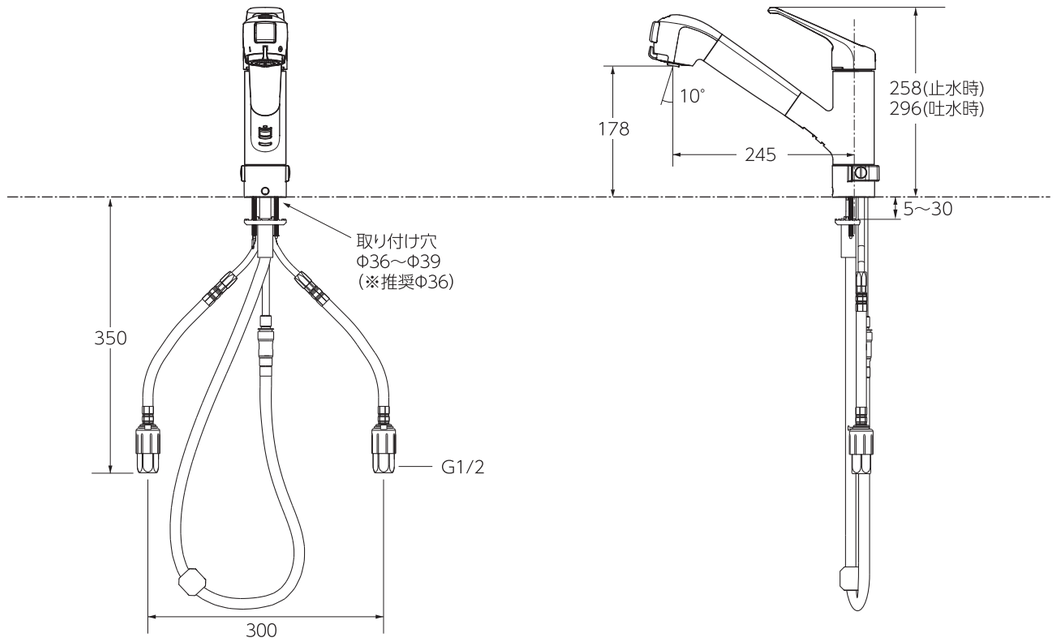


●冬期に施工完了し、お客様にお引き渡しするまでの間、凍結による破損が予想されますので、水抜きなどの予防処置を行ってください。



⃠ 温泉水など、異物を多く含む水には使用できません ※給水は上水道に接続してください。

外観寸法図



設置条件

■水圧条件

■**給水・給湯圧力範囲は動水圧0.05MPa～静水圧0.75MPa**です。この圧力範囲内でご使用ください。**推奨圧力は静水圧0.2MPa～0.3MPa**です。給水圧力が**静水圧0.75MPaを超える場合は、市販の減圧弁で静水圧0.2MPa程度の適正圧力に減圧**してください。但し、給湯圧力は給水圧より**高くならないように設定**してください。
■給湯配管は最短距離で配管し、配管には必ず保温材を巻いてください。

・**水量調節や取り付け後の保守点検の為、止水栓（別途手配）を取り付けてください。**
・**給水圧力と給湯圧力は圧力差が少ない程、温度調節が容易になります。**

1.施工方法

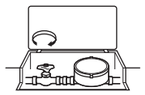
※新設の場合は「1-❷上面施工ユニットの取り付け」に進んでください。

1-❶水道配管の止水栓を閉める

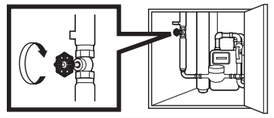
止水栓ボックス(メーターボックス)のふたを開け、止水栓を右にまわして閉めます。
※一部の地域では左まわしの場合もあります。

●キー式

●ハンドル式

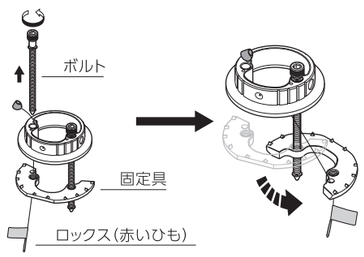


●マンションなどの中高層住宅の止水栓ボックス



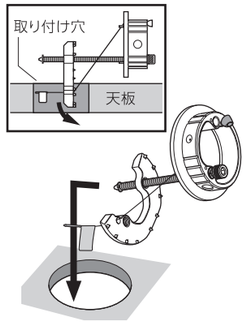
1-❷上面施工ユニットの取り付け　取り付け穴に上面施工ユニットを差し込み、固定します。

①ロックス(赤いひも)側のボルトをはずし、固定具を180°回転させます。

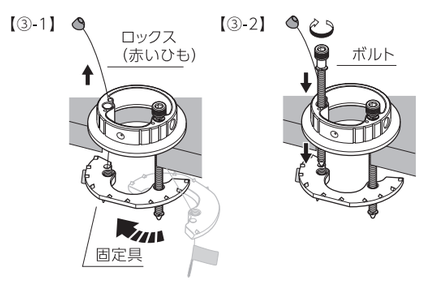


ロックス(赤いひも)は切らないでください。その後の施工が出来なくなります。

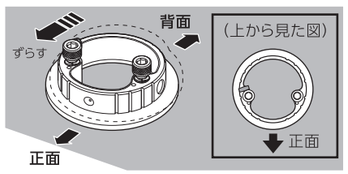
②取り付け穴にいれます。



③ロックス(赤いひも)を引っ張り、固定具の位置を合わせます。【③-1】
はずしたボルトを挿入し、軽く締め込みます。【③-2】

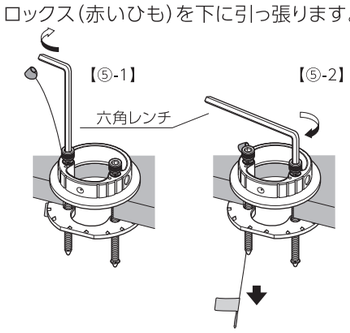


④取り付け穴の手前に当たるまでずらして芯を合わせてください。

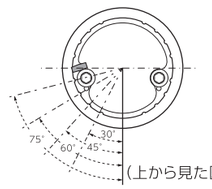


※上面施工ユニットの方向に注意してください。

⑤上面施工ユニットを手前に押し当てた状態で、付属の六角レンチ(4㎜)でボルトを左右均等に締めます。【⑤-1】
さらに六角レンチを横にして、ボルトを半回転以上増し締めし、上面施工ユニットを確実に固定します。【⑤-2】
ロックス(赤いひも)を下に引っ張ります。



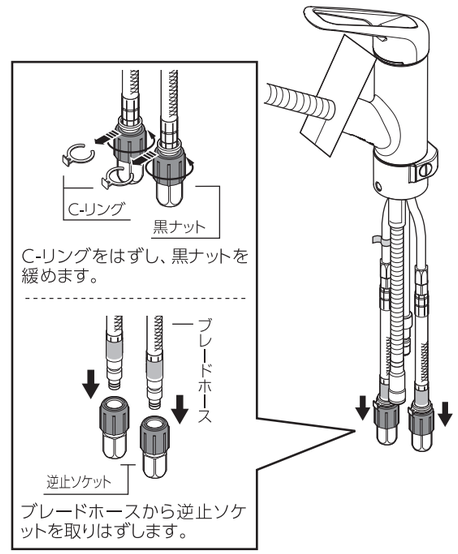
※台座部に30°から15°毎にミゾをつけています。このミゾを目安に角度をふって蛇口を取り付けることができます。(キッチンのコーナーに取り付け穴があるタイプ)



⚠注意　上面施工ユニットを正しく取り付けないと水栓本体の固定強度が低下し、水栓本体にガタが発生する不具合の原因となります。

1-❸ブレードホースから逆止ソケットを取りはずす

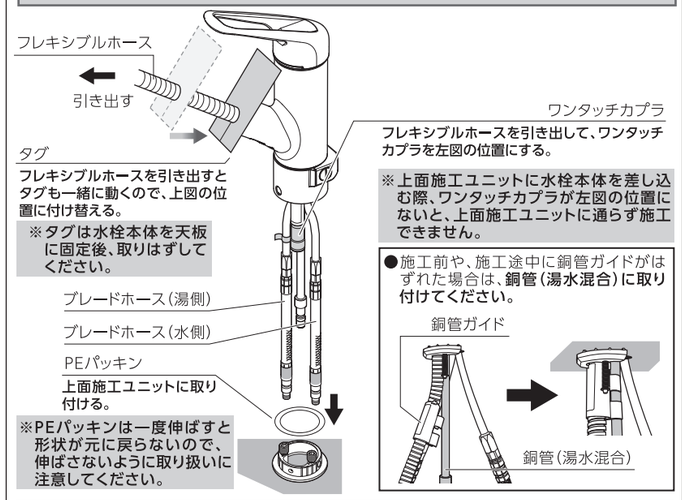
水・湯側のブレードホースから逆止ソケットを取りはずします。



1-❹水栓本体の取り付け

①上面施工ユニットにPEパッキンを取り付けます。その後、フレキシブルホースを引き出し、ワンタッチカプラを下図の位置にします。また、ワンタッチカプラの位置を維持するため、タグを下図の位置に付け替えておきます。

※寒冷地仕様の場合、ワンタッチカプラはフレキシブルホースに接続されていません。ワンタッチカプラの位置がフレキシブルホース末端となります。



●施工前や、施工途中に銅管ガイドがはずれた場合は、**銅管(湯水混合)に取り付けてください。**

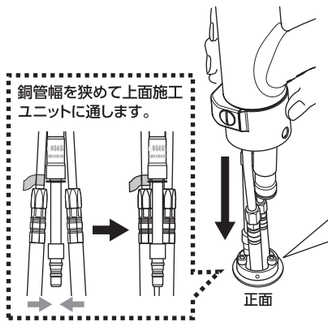
⚠注意　天板に水栓を取り付ける際、不安定な場合は「あて木」などで補強を行ってください。

②水栓の向きを上面施工ユニット正面から見て横向きになっている状態で上面施工ユニットに差し込みます。(※この時、湯/水両方の銅管を内向きに束ねるように幅を狭めてから差し込みます。)【②-1】
ワンタッチカプラが上面施工ユニットのネジ部の位置まできた時、水栓の向きを正面に戻し、水栓本体のネジ穴と上面施工ユニットの凹部を合わせて最後まで差し込みます。【②-2】
セパレートユニット固定プラグで水栓本体を固定します。(水栓本体に浮きがないよう注意してください。)【②-3】

【②-1】

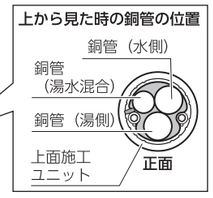
<ポイント>
①上面施工ユニットに通りやすいように銅管を狭める。
②正面から見て、水栓が横を向いた状態にして差し込む。

銅管幅を狭めて上面施工ユニットに通します。



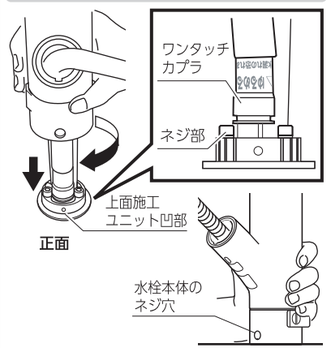
※上面施工ユニットに銅管を差し込む際、ブレードホースが削れないようにしてください。

上から見た時の銅管の位置



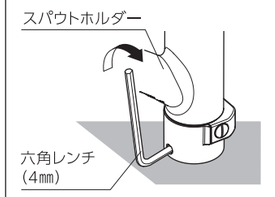
【②-2】

<ポイント>
ワンタッチカプラが上面施工ユニットのネジ部の位置まできた時、水栓の向きを正面に戻し、最後まで差し込む。



【②-3】

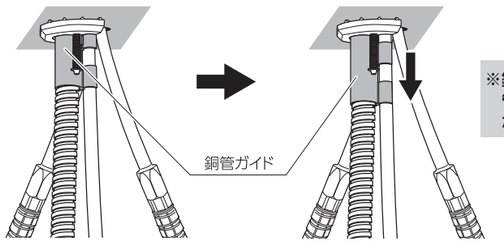
<ポイント>
上面施工ユニットに水栓本体をかぶせた後、ネジ穴にセパレートユニット固定プラグを六角レンチ(4㎜)で締め込んで、水栓本体を固定してください。



※水栓取り付け後はスパウトホルダーを下に下げてください。

③セパレートユニット固定プラグで水栓本体を固定した後、(水栓本体に浮きがないよう注意してください。)フレキシブルホースを下に引き出してください。

※水栓本体を固定した後、銅管ガイドを図のように止まるところまで下に引っ張ってください。



※銅管ガイドは、銅管から取りはずさないでください。

1-❺止水栓に逆止ソケットを取り付ける

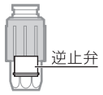
止水栓に逆止ソケットを取り付けます。※逆止ソケットは平行ネジです。

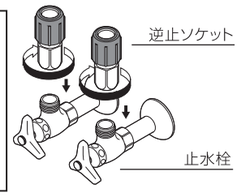
(注1)止水栓がテーパーネジ(Rネジ)の場合は、テーパーネジ(Rネジ)用アダプターを使用してください。

⚠注意 **水漏れのおそれがあります**
平行ネジ(Gネジ)にはシールテープを巻かないでください。

パッキン
逆止ソケットの中のパッキンが脱落していないか確認ください。

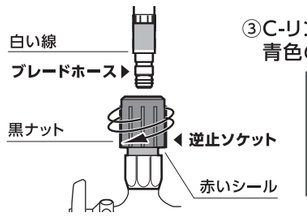
【要確認】
通常仕様･･･逆止弁あり
寒冷地仕様･･逆止弁なし



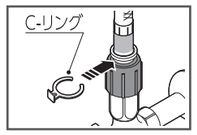


1-❻逆止ソケットとブレードホースを接合する

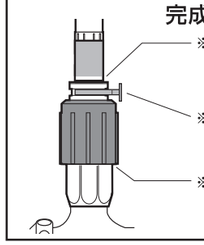
①ブレードホースを白い線までソケットに差し込む
②ソケットの赤いシールが見えなくなるまで黒ナットをしめる



③C-リングを逆止ソケットの青色の溝にハメ込む



完成図

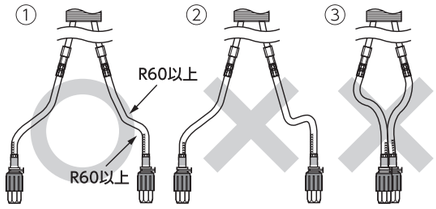


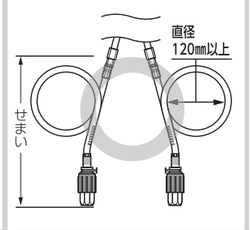
※ブレードホースを白い線の位置まで差し込んでいる
※ソケットの青色の溝にC-リングがはまっている
※赤いシールが見えない位置まで黒ナットが下がっている

⚠注意 水が出なくなります

給水･給湯ホースの施工上の注意点

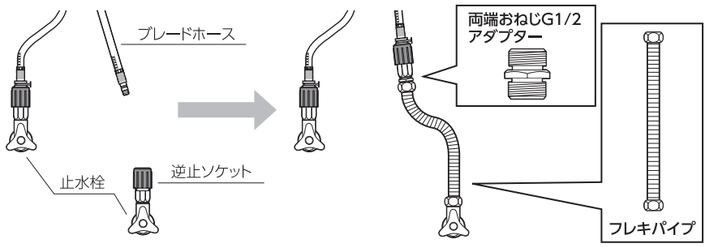
①ホースの**折れにご注意**ください。
ホースを最小曲げ半径(60㎜)よりも小さく曲げて使用すると、ホースが折れることがあり、折れた部分で早期破壊を生じる可能性があります。施工時には最小曲げ半径(60㎜)よりも小さく曲げないように、ご注意ください。
②金具本体端面から**極端に屈曲して、施工しない**でください。
③ホース同士の**不要な接触は避けて**ください。外部補強層の摩耗による外傷でホース性能の劣化の可能性がありますので避けてください。





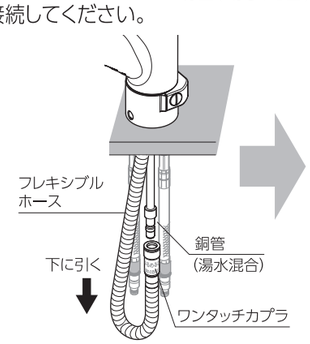
取り付けの間隔がせまく、標準のブレードホースが屈曲してしまう場合、**400㎜タイプ**又は**580㎜タイプ**のブレードホースを用いて屈曲しないよう、図の様に取り付けてください。

※止水栓が特殊な位置から立ち上がっているために、ブレードホースと逆止ソケットの接合が出来ない場合は、市販のフレキパイプを止水栓に繋ぎ、市販の両端おねじG1/2アダプターを使用して、フレキパイプと逆止ソケット位置を調整してください。

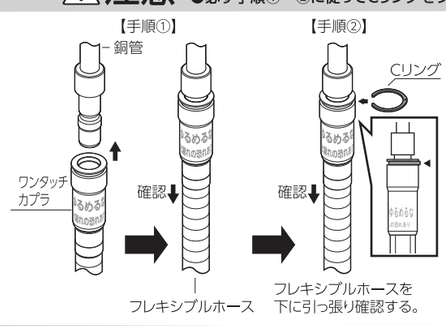


1-❼フレキシブルホースを吐水口側の銅管(湯水混合)に取り付ける

フレキシブルホースを銅管(湯水混合)に接続してください。

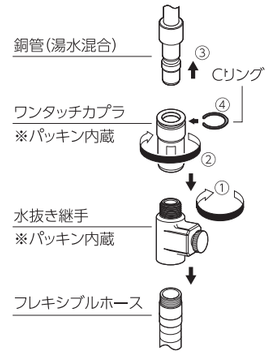


⚠注意 **漏水の原因となります。**
●必ず手順①～②に従ってCリングをワンタッチカプラへ取り付けてください。



①銅管にワンタッチカプラを**カチッと音がするまで確実に差し込んだ後、**フレキシブルホースを引っ張ってはずれないことを確認します。
②Cリングをワンタッチカプラに取り付けます。Cリングの取り付けは、**必ずワンタッチカプラと銅管を接続した後**に行ってください。先にCリングを取り付けると**ワンタッチカプラを銅管へ接続できません。**
Cリングを取り付けた後、フレキシブルホースを引っ張ってはずれないことを再度確認します。(接続が不十分な場合、**漏水の原因**となります。)

寒冷地仕様の場合



①フレキシブルホースに**水抜き継手を回して**取り付ける。

パッキン
水抜き継手の中のパッキンが脱落していないか確認してください。

②水抜き継手にワンタッチカプラを回して取り付ける。

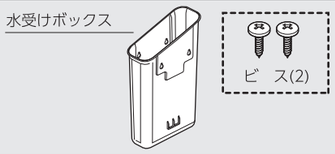
パッキン
ワンタッチカプラの中のパッキンが脱落していないか確認してください。

③銅管にワンタッチカプラを**カチッと音がするまで確実に差し込む。**
④Cリングをハメ込みフレキシブルホースを**引っ張ってはずれないことを確認する。**

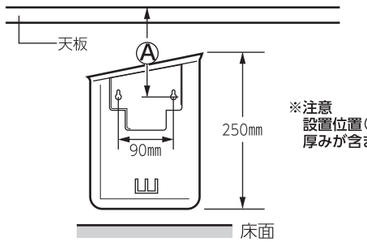
水受けボックス設置の仕方

⚠注意 **※必ずお読みください。**

●水漏れ事故防止のため、当社製水栓金具「みず工房」以外のものに取り付けないでください。
●蛇口本体のスパウトホルダーから水が多量に入った際には、水受けボックスを取りはずし、滞留水を捨ててください。
●フレキシブルホースが最も引き出された状態で、フレキシブルホースの最下端が水受けボックスの中に入るようにホースストッパーの位置を調節してください。
●変形するおそれがあります。40℃以上にならないような場所に設置してください。



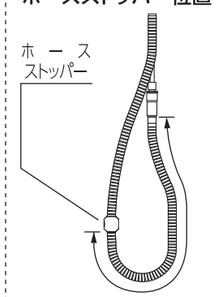
〈シンク下での水受けボックス、ホースストッパー設置位置の目安〉



※注意
設置位置Ⓐには天板の厚みが含まれています。

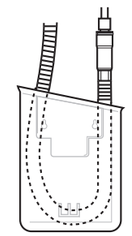
	フレキシブルホースの長さ	設置位置Ⓐ	ホースストッパー位置
通常仕様	1050㎜	340㎜	460㎜
寒冷地仕様		360㎜	490㎜

ホースストッパー位置

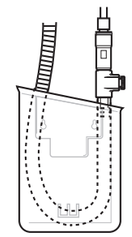


フレキシブルホースのセッティングの仕方

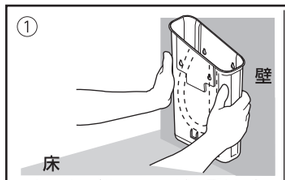
通常仕様の場合



寒冷地仕様の場合

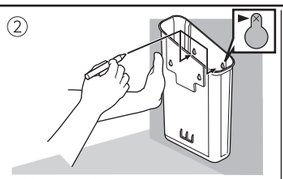


①



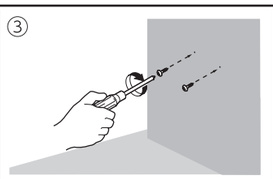
フレキシブルホースが水受けボックスの中に収まるように水受けボックスの高さを調節します。

②



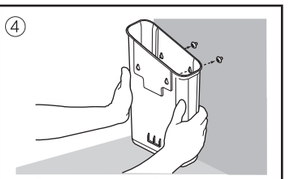
調節した位置でフレキシブルホースを抜き、ビス取り付け位置を図のようにペンなどでマーキングします。

③



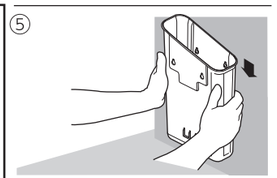
マーキングした位置に㊥ドライバーでビスを取り付けます。(ビスは水受けボックスの厚み分残して締め込んでください。)

④



水受けボックスの穴をビスに通します。

⑤



水受けボックスを下に引いて固定します。

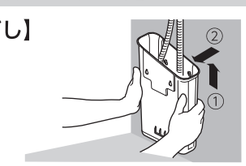
フレキシブルホースの収納と水受けボックスの取りはずし方

【収納】

フレキシブルホースを収納します。

フレキシブルホースを出し入れし、フレキシブルホースが水受けボックスに確実に収納されることを確認してください。

【取りはずし】



図のようにして水受けボックスを持ち上げ(①)、手前に引いて(②)取りはずします。

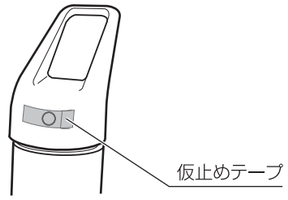
2.取り付けが終わったら

2-❶水道配管の止水栓を開ける

止水栓ボックス（メーターボックス）のふたを開け、止水栓を左にまわして開けます。※一部の地域では右まわしの場合もあります。

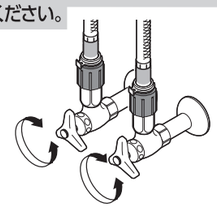
2-❷仮止めテープをはがす

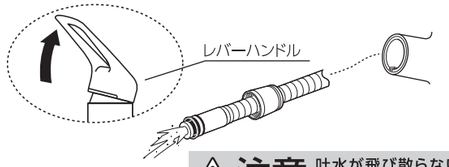
レバーの後方にある仮止めテープを剥がしてください。



2-❸浄水器部を取り付ける前に給水管内のゴミなどを洗い流す

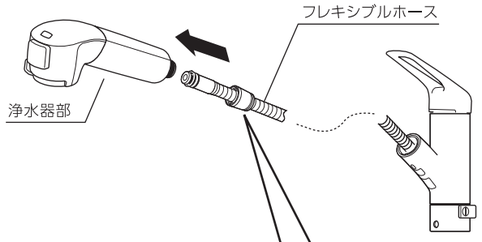
レバーハンドルが閉じているのを確認してから、シンク下の止水栓を開き（湯側・水側同様）、レバーハンドルを上に上げて給水管内のゴミなどを完全に洗い流してください。その後止水栓を閉めてください。





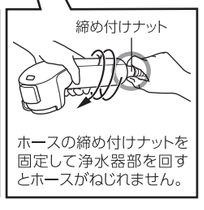
⚠注意 吐水が飛び散らないよう注意してください。

2-❹浄水器部を取り付ける



⚠注意

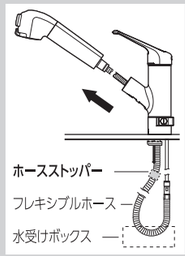
ホースの締め付けナットを固定して浄水器部を回転させて取り付けてください。※ホースを回転させて取り付けるとホースがねじれ、故障の原因となります。



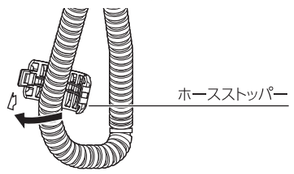
2-❺ホースストッパーを取り付ける

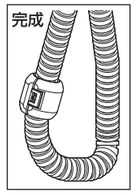
【取り付け上の注意】

浄水器部の引き出しすぎにより、フレキシブルホースが元の位置に戻らない可能性があります。フレキシブルホースが元の位置に戻るように、引き出し長さをホースストッパーで調節してください。尚、水受けボックスをご使用の場合は、フレキシブルホースが最も引き出された状態で、フレキシブルホースの最下端が水受けボックスの中に入るようにホースストッパーの位置を調節してください。



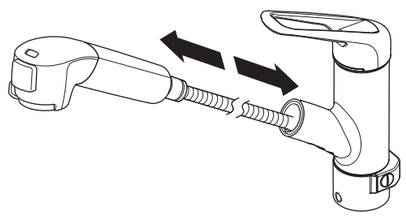
フレキシブルホースをはさみ込みます。





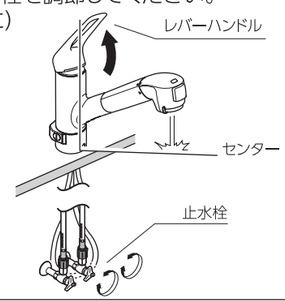
2-❻引き出し・収納がスムーズに行えるか確認する

浄水器部の引き出し、収納を数回行い、正常に戻ることを確認してください。フレキシブルホースがスムーズに出し入れ出来ない場合は、給水・給湯の銅管部を左右に広げてフレキシブルホースの通る空間を確保してください。



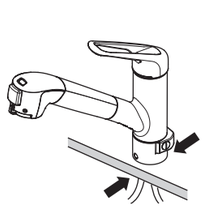
2-❼止水栓で適量の流量に

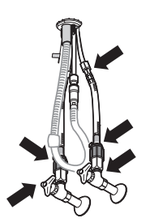
レバーハンドルをセンターに合わせ、全開にして適温の湯が出るように止水栓を調節してください。
（湯側・水側同様に）



2-❽各接続部の水漏れがないかをチェックする

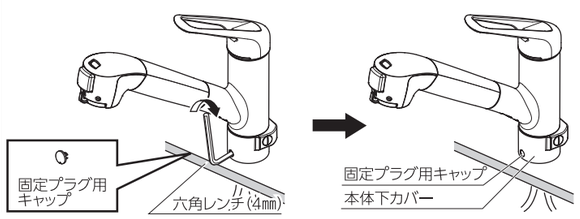
施工完了後は、配管接続部、逆止ソケットおよび水栓から水漏れのないことを確認してください。





2-❾水栓本体がガタついていないかをチェックする

施工完了後、水栓本体にガタつきがある場合は、六角レンチ（4㎜）でセパレートユニット固定プラグを増し締めしてください。水栓本体のガタつきがなくなったのを確認した後、本体下カバーに固定プラグ用キャップをハメ込んで目隠しをしてください。

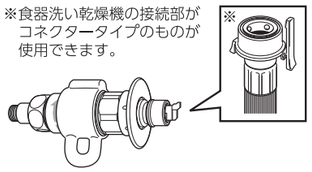


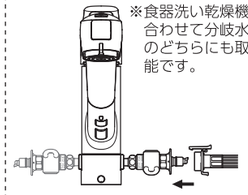
食器洗い乾燥機とつなぐには（パチット分岐水栓が付属されている場合）

⚠注意 **分岐水栓接続口からはお湯が出ます。食器洗い乾燥機を使用する場合には、必ず給湯温度を60℃以下に設定してください。**

JH9007 パチット分岐水栓

※食器洗い乾燥機の接続部がコネクタータイプのものが使用できます。



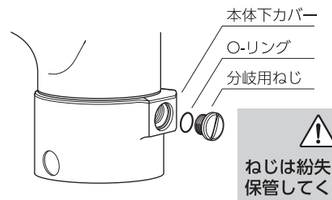


※食器洗い乾燥機の位置に合わせて分岐水栓は左右のどちらにも取り付け可能です。

※食器洗い乾燥機の種類によっては、給水ホースの接続部がねじタイプの場合があります。その場合は、食器洗い乾燥機の取扱説明書をご確認ください。

3-❶分岐用ねじをはずす

止水栓を閉めた後（1-❶参照）、接続したい側の分岐用ねじをはずしてください。

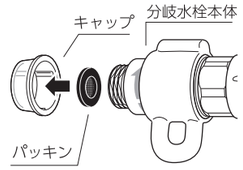


⚠注意

ねじは紛失しないよう大切に保管してください。

3-❷キャップをはずす

分岐水栓本体に付いているキャップをはずしてください。

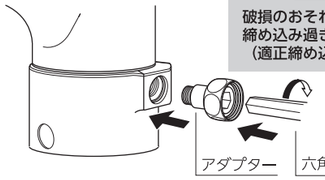


⚠注意 **水漏れの原因になります。パッキンを紛失しないようにしてください。**

3-❸アダプターを取り付ける

分岐水栓のアダプターを水栓本体に取り付けてください。

※六角レンチ（6㎜）で締めつけてください。

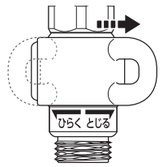


⚠注意

破損のおそれがあります。
締め込み過ぎないでください。
（適正締め込みトルク10N・m）

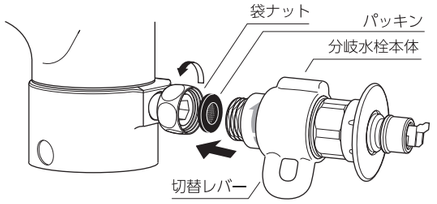
3-❹分岐水栓本体を固定する

パッキンを袋ナットにハメ込み袋ナットを回して分岐水栓本体を固定してください。



⚠注意

分岐水栓本体を取り付ける際は、必ず切替レバーを「とじる」の状態にしてください。



3-❺取り付けがおわったら

止水栓を開けてください。（2-❶参照）
その後、水漏れがないことを確認してください。

■アフターサービスについて

破損した部分の交換や設置、使用上のご不明点など、本商品に関する事柄は、当社までお問い合わせください。

■商品に関するお問い合わせは

タカギ・コミュニケーションセンター
通話料無料 0120-328-413 24時間電話受付（年中無休）

製造元 株式会社 タカギ
http://www.takagi.co.jp/